

# 2021 当社の成長可能性について

JIG-SAW株式会社

# データコントロール事業

---

- IoT-OEMライセンスマネージ

組み込みIoTエンジンのOEMライセンスのグローバル提供及びサブスクリプション管理

- IoTデータコントロール

エッジからクラウド間におけるE2EのIoTデータストリームにおける各所の自動課金

- E2Eデータコントロール

エッジ～IoTデータ～クラウド & SaaSにおけるデータコントロール・自動制御



# JIG-SAWの独自コア技術

---

- ソフトウェア基盤技術「OS技術」
- ハードウェア基盤技術「ハードへのソフト組込技術」
- データ制御基盤技術「信号・通信制御技術：キャリア標準モジュール開発＝通信ソフトウェア技術」
- 全自動制御(A&A : Auto Sensing & Auto Control) 技術

# JIG-SAW IoTエンジン



- **OEM (IP戦略)**

- エッジ組み込みIoTエンジン
- 国内特許取得済。グローバルもすでにPatent出願済 (国内外ともに同類エンジンなし)

- **3大クラウド自動接続**

- 通信制御・HW制御・クラウド制御及び高い汎用性

- **多彩かつ汎用的な機能を超マイクロ化**

- RTOS組み込み、通信制御、エッジ&クラウド双方向制御
- 1M、512K、256K、100K以下等のラインナップ準備中

# JIG-SAWのIoT-OEMビジネス 1/4

IoT基盤コア技術によるハードウェア組み込みライセンスを

## 「OEMモデル（ホワイトラベル）」

でステルスで提供していく

これは、売り切りモデルではなく  
完全な継続サブスクリプションであり、  
かつデータボリューム増加によるビジネス拡大が継続するモデル

# JIG-SAWのIoT-OEMビジネス 2/4

JIG-SAWのIoT連携は**多方面・多岐**に渡る（下記一部のみ記載）

- **エンジン搭載先**：STマイクロMCU、Spresense（ソニー製：ソニーセミコンとは業務提携）及び未公表のEMS・電子基盤・半導体企業。今後も拡大の一途。

- **双方向データ自動制御先**：AWS、GCP、SFDC、Oracle、SAP、Tridium（ハネウェルグループ）等とは米国を軸にパートナー提携

- **米国Verizon**が当社IoTエンジン内蔵HWを**キャリア認証完了**

- **米国Qualcomm**のスマートシティプロジェクトへの参画確定

# JIG-SAWのIoT-OEMビジネス 3/4

- あらゆる産業、特に電子基盤のIoT化・DX化のためのHW組み込みIoTエンジンのグローバルライセンス
- 電子制御・基盤メーカーのDXのための加速材料
- 商用レベルにおいて国内外での高い優位性  
(日米において大手クラウド、グローバルMCU企業、米国キャリア、国内半導体と相次ぐIoT提携・パートナー化実現)

## JIG-SAWのIoT-OEMビジネス 4/4

2020年後半より多数の企業で**自社プロダクト製造段階で  
JIG-SAW IoT エンジンが内蔵**されるHW製造を開始

製造・組み込み（内蔵）は各社・メーカーにて対応

**完全ファブレス**によるHWへの内蔵、  
**サブスクリプションモデル**ビジネスへと進化





# JIG-SAW-IoT 多彩な課金

---

- エンジン組み込みライセンス
- エンジンライセンスサポート
- IoTデータ転送課金
- IoTデータプール課金
- IoTデータモニタリング課金
- エッジ制御コンソール利用課金
- エンジンの各種付加機能による機能別利用課金
- エッジ～クラウド一括統合モニタリング課金



## 広がるOEMターゲット

---

- MCU組み込みライセンス
- グローバル通信モジュール組み込みライセンス
- 各種EMSメーカー向け組み込みライセンス
- IP・設計情報・リファレンス情報のライセンス提供
- 米国クラウド事業者向けIoTコアエンジン連携・商品化
- グローバルMCU企業との組み込みAIエンジン連携

# 当社の目指す指数関数的な成長

従来サブスクリプションサービスの加速と超高収益・スケールモデルであるIoTエンジンライセンスのスケールにより**PSU条件クリア**に向けて取り組み、**その後も全世界のあらゆる業界**の機器・電子基板等、プロダクトを保有・製造する事業者と連携（ライセンスOEM提供・サポート）を継続していく

従来の業種の枠を超える**類を見ない**業界横断チャンネルとパートナー連携

「ソフトウェアライセンス・ハードウェア・クラウド・SaaS」を完全に繋ぎ込み、それらを全自動制御システムにより**A&Aコントロール**していく

PSU：すでに公表済みの業績条件付株式報酬制度:パフォーマンス・シェア・ユニット

A&A：JIG-SAWが提唱するAuto Sensing & Auto Controlモデル

# コア技術の応用

## 自動運転・自動操縦分野

- **業界標準**を目指す建機分野の自動運転プロジェクト
- **ゼネコン4社が参画**（大林組・安藤ハザマ・大成建設・熊谷組）
- **総務省5Gプロジェクト**をはじめゼネコン各社との実証実験や他との協調制御連携等全て順調に進行中
- **自動運転の事業化**に向けた検討を本格的に開始



# コア技術の応用 再生医療分野のR&D

視覚再生プロジェクト -NEW VISION-

(色信号を制御し脳に伝送するソフトウェア)

ソフトウェア技術で**人間の視覚能力（知覚）の拡張**の実現を指向

- 国内に続き**米国でも**ソフトウェア+グラスの**特許取得**
- 今後の具体的な臨床等に向け引き続き研究開発継続
- さらに高レベルのアルゴリズム開発にも着手





# JIG-SAWの指向するIoTの先

## IoE・IoA

### IoA（人間の能力拡張）

JIG-SAWは保有するコア技術の応用により、全てのモノが繋がるIoT (Things)にとどまらず、あらゆる物質や細胞までにリーチするIoE (Everything)、そして人間の能力を拡張させるIoA (Abilities) までを視野として捉える。これはヒューマンオーグメンテーションの世界でもある。

JIG-SAWが取り組む視覚再生プロジェクト「NEW VISION」はIoA（ヒューマンオーグメンテーション）の取り組みの一つでもあり、ブレイン・マシン・インターフェース（Brain-machine Interface）の要素も併せ持っている。

### 五感の拡張

NEW VISIONプロジェクトは人間の知覚をソフトウェアによって拡張することを念頭にしたプロジェクトであり、テクノロジーと人間の実質的な統合により、いわゆる人間の五感（視覚・聴覚・味覚・臭覚・触覚）の拡張を目指している。

※ブレイン・マシン・インターフェース：人間の脳へのダイレクト伝送。

# そして、既存サービス（E2Eコントロール）も**一気に成長加速**

- 大きな成長に向けた**準備完了**

- 現行の**数倍の処理能力インフラ投資**（2021年5月に大規模第二コントロールセンター開設と北米センター拡充）
- スタッフアサイン及び自動制御プラットフォームの研究・開発と整備

- チャンネル及びパートナー数の猛烈な拡大

- ICT**業界全体へ**の波及させていく

- IoTマネジメント（**IoTデータコントロール**）ニーズの顕在化

- コロナ禍による影響を全く受けず（**むしろ加速**）あらゆるもののインターネット化（IoT化・DX化）による大きな波の到来

# JIG-SAWのIoTビジネスビジョン

## 全産業のIoT化に寄与し世界のIoTの根元で隠れた中心的存在となる

- IoTビジネスのドライバーの大半は海外（主に米国）にあり、当社は引き続きグローバルのキー企業との提携・連携・協業を実行していく
- キー企業群のビジネスとJIG-SAWのビジネスとの強いリンクを推進
- ハードとソフトの相対的な関係を変動させる：ソフト（エンジン）がハードのビジネスをリード
- 電子基盤、シリコンレベルのOEM内蔵をステルス（水面下で）進行



**Change the Game  
&  
Change the World**

# 本資料の取り扱いについて

本発表に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。当社は、将来の事象等の発生に関わらず、本発表内容に関する更新、修正を行う義務を負うものではありません。

本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。個別契約やビジネス等に関する情報につきましては、秘密保持契約等に基づき原則非開示となりますが、開示が可能となった段階で適時適切にニュースリリースおよび適時開示を行ってまいります。IR取材や決算説明会等におきましても、上記と全く同様の対応をしております。